【今回のプレレジュメについて】

私達第 3 週目発表班は、今回の発表で「第 4 章　都市のモダニズム：建築とアーバンデザイン」を扱う。この章で、筆者は 1 章、2 章でのモダニズム、ポストモダニズムの議論を踏まえた上で、1970 年代にラバンが提示した『ソフト・シティ』という都市の解釈を基盤にし、ポストモダンにおける都市のありようを読み解こうと試みている。したがって、筆者の解釈は『ソフト・シティ』で提示されていた都市の解釈との差異の部分に表れていると言うことができると考えた。筆者は、この差異の部分を提示するにあたり都市を 1 つの言説として読み解くという方法を採用した。そしてポストモダンにおける都市はラバンが示したように決して表層的なものだけでなく、さまざまな意味を多元的に表していると結論づけている。今回のプレレジュメは、発表班以外の人の理解を助けるものとして、この章において重要である事項をまとめた。発表、そして議論の活性化のためにある程度理解していただきたい。なお、前回までの内容は理解しているものとして発表、議論を進めるので不明点等がある場合、文献を再読したり、ゼミ生同士で質問しあったりすることを勧める。

■モダニズム建築とポストモダニズム建築特徴

モダニズム建築	ポストモダニズム建築
・大規模な都市計画と開発	・都市デザイン(計画ではない)
・機能主義的外観【国際的様式】	・多層的、コラージュ的
・合理的で効率的	・嗜好、ニーズに応える【折衷主義】
・社会的な目的のための建築	・美の達成のための建築

◆モダニズム的都市計画

・単一機能的なゾーニングを通じて機能する。(ゾーニング⇒地域を区分する用途)

　↓反エコロジカル　(時間・エネルギー・土地の浪費)

象徴的な貧しさ　Ex. 商店街 オフィスパーク

一つの場に縦にも横にも過度に集中している。

◆ポストモダニズム的都市デザイン

・一つの都市に複数の都市が共存

　↓エコロジカル　(無理なく歩ける空間パターン)

象徴的な豊かさ　＝多様性

伝統的要素の積極的な使用＋モダンのテクノロジー

一つの都市に複数の顔を持つ。Ex.ディズニーランド、ラスベガスの街並み

◆啓蒙的プロジェクトの復活
世界第二次世界大戦後、バラバラになってしまった社会をまとめあげるために、啓蒙的プロジェクトのようなものが再度立ち上がった。都市は破壊され、大規模な再構築・再形成・再開発が必要であった
⇒開発/建築業界が支配的な力を持つようになった

<u>イギリス式解決策</u>
・空間的パターンや循環システムの無駄をなくす
・国家の用心深い監視

<u>アメリカ式解決策</u>
・政府支援の住宅金融や高速道路、その他インフラストラクチャー

◆『アメリカ大都市の生と死』J・ジェイコブス 1961 年
1945 年以来再構成されてきた都市の光景を各所得層において批判した
∵それぞれの住宅計画案は社会的虚無状態を作り出す温床となったり、都市の弾力性や生命を押さえつけたり、都市を犯したりしている

◆社会的な相互作用の過程
J・ジェイコブスは「過程がきわめて重要と述べる」(「健全な」都市環境において検討する
①体系的な複雑性をもつ入り組んだシステム
②多様性と複雑性を要因とする社会的相互作用の活力とエネルギー
③予期せぬものを扱う能力
＋その過程を促進させるものに考えることも重要

市場過程の存在
→多様性に逆らう傾向や同類の土地利用を生み出す

→都市計画家や都市デザイナーへの不平
∵多様化への尊重がない。また、その影響力を理解していない上に多様化を表現する美学的問題に魅力を感じていない

◆多様性の美学の表現方法
ポストモダニズムがいかに多様性の美学の表現方法を見出しているかを検討することが

重要である

∵ポストモダニズムの外見上の長所と深層にある短所を明らかにする

ポストモダン建築の 2 つの技術的変化

① 輸送技術、コミュニケーション技術

→「従来の空間と時間の境界」を解体し、差異化を生み出す

② 新技術

→大量生産の多様なスタイルを許容する

（＊ポストモダン運動が新しい技術を重要視はするが、技術によって規定されていると解釈するのではない）

◆ポピュリズム

・ポストモダンの建築家と都市デザイナーは「嗜好の文化」に合わせることができる

・ポストモダン建築は反アヴァンギャルド的である

→しかし単なるポピュリズムが上述の J・ジェイコブスの不平に応えているかどうかは明らかではない

＊『コラージュ・シティ』ロー、コースター

→「ポピュリズムの擁護者たちは、民主主義（自由）と法秩序（正義）の間での不可欠な衝突について思索をめぐらすことに熱心でない」ことを危惧している

＊様々な対抗文化的諸要素（マイノリティや貧しい人々）から成る問題は伏せられたまま

→緻密でまとまりのある都市コミュニティの存在を前提とした真に民主主義で平等主義的な何らかの計画システムを考え出す必要がある

◆ポストモダニズム建築の市場志向化

・富裕者と貧者の要求を等しく満たすという課題は、「嗜好の文化」やコミュニティの要求が、富裕者に有利な政治的影響力と市場の力を通じることで悪化

・建築と都市デザインの中のポストモダニズムは、差異化を求める人が個々の要求を表せられるコミュニケーション言語となる

→ポストモダニズム建築が市場志向になり、富裕者や個人消費者にへつらう

◆都市デザインの逆転

多様性→地代に基づく土地配分

計画→市場

→急速なジェントリフィケーション(※1)と単調なその結果、ポストモダニズム建築家が飽きてしまい、短期的なものに終わってしまう

→都市景観を新たな画一性なパターンへと再び仕向ける

Ex.ショッピングモール、アトリウム

◆象徴資本
・象徴資本…もっているだけで所有者の嗜好と社会性卓越性を確立するもの
・富裕者が消費するドルを追及することで、人とは違うもの、差異化に重きが置かれる
→嗜好や美的好みの領域を切り開こうと象徴資本の生産と消費を強調した

「嗜好の強制的民主化、平等主義」と「階級によって拘束されている資本主義社会を結果的に存続させるものの典型である社会的卓越性」との矛盾
→人々の抑圧された願望が出てくる
→より多様化した都市環境や建築様式のための市場を刺激。

・象徴資本が資本であり続けるのはイデオロギー(※2)が資本を支える限りにおいてのみ
→嗜好の制作者間でいかに作品に差異をつけるか競争する
→嗜好の制作者の影響力が都市生活面と芸術面に新たな嗜好基準を定着

◆建築の言説
・建築のラング（コミュニケーション言語）は高度に差異化された言説に分類し、どんなパロール（嗜好）にも対応できる
→建築があらゆる解釈的コミュニティに適合することで多様化する
建築に混乱状態を作り出し、都市環境を入り組んだものにすることで、多様さを人々は意識的に受け入れる

※1 ジェントリフィケーション
→街を再開発し、高級化すること
※2 イデオロギー
→ここでは社会的に象徴資本が価値のあるものとみなす支配的概念

◆多様化した建築
上記の項目に記載されている事象、つまり戦後復興において隆盛したモダニズム建築への批判的思想、または技術的な進歩、あるいは市場原理の影響の結果として建築が多様化した
⇒ポストモダンの、所謂「分裂症」的性格が生まれる

ジェンクスがそれを引き合いに提示した二つのコード化(規準化)
①変化が緩慢で、通俗的・伝統的なコード化

②新しい素材・テクノロジー・イデオロギーを有する社会に根付くモダンのコード化
≒ボードレールの定式化

ポストモダニズムは新たに歴史主義的性格を獲得し、現在の不安定な状態に潜む意味をモダニズム的に追求することを放棄した
⇒「歴史的連続性(※3)」と「集合的記憶(※4)」を用いて、「永遠なるもの」に対してより広範な基盤を主張

※3「歴史的連続性」
→前述のクライアーの主張に見られるような過去のスタイルを引用すること

※4「集合的記憶」
→モニュメントなどが表すことの出来る「外に漏らさず、間断ない意思、すなわち自らを集合的に表しているものに見出すことの出来る」神秘

◆ロッシの歴史への言及
ロッシは「生活様式」(※5)という概念を引用し、神話を美学的に生み出した
→それは「英雄的」モダニズムが 1930 年代に出くわした罠、つまりファシズムを生む可能性があると考えられたため、批判に晒された

※5「生活様式」
→ブラーシュの概念。彼は普通の人々がある種の、生態的、科学技術的、社会的条件下で打ち立てる、やや永続的な生活様式を念頭においている。

◆ヒューイソンの「文化遺産産業」
過去の形態を真似て再構成した都市風景や、過去の都市基盤の複製は、イギリスにおいて風景の変容の要となった
＝主要産業が、商品の生産から文化遺産の製品化へと急速に変化
この背後には過去を保存しようとする衝動があり、それは自己を保存しようとする衝動の一部をなしている

「秩序立った安定的なシステム＝文化的シンボル(過去と現在の連続性を示すもの)」によってわれわれは刷新と衰退のいずれにも対処することが出来る

<u>ヒューイソンの「文化的シンボル」≒ロッシの「モニュメント」</u>

他のポストモダニスト達がただ単に過去のスタイルを折衷的に使用したのとは対照的に、ロッシ、ヒューイソンは歴史的な言及を各々のやり方で捉えた

◆空間的(地域的・国際的)折衷
ポストモダニズム的な建築やデザインは、空間的(地域的・国際的)な情報やイメージも引用する

ジェンクスは「想像の博物館」(※6)が混ぜ合わされるようになるのは必然であると説いた

※6「想像の博物館」
→他の場所での体験や映画、テレビ、展示会、旅行パンフレット、大衆雑誌などから集められた知識からなるもの

チャイナタウンや「リトル○○」といった特殊な場所は、本来の地域的性質を覆ってしまうものにさえなっている

⇒いずれの折衷主義(特に歴史的な引用や空間的引用)にも、特定の目的を持ったデザインを見つけることは難しい

◆都市のスペクタクル化
反体制運動における暴動やデモといった都市のスペクタクルから、都市を発展させるためのスペクタクル利用に
・ボルチモアの例
有色人種が数多く住むダウンタウンにおいて反体制大衆運動が頻繁、これによってダウンタウンのイメージは悪化
→スペクタクルによってダウンタウンの経済的発展、イメージチェンジを促す
→博覧会というスペクタクルによって上述の問題点を解決、またエスニック・アイデンティティの強化を目指した
⇒都市を発展させるためには1960年代のようなモダニズム的な建築ではなく、高尚な喜びの感覚を覚えるようなスペクタクル建築物が必要
Ex. ハーバープレイス、科学館、水族館、コンベンション・センター

◆都市のイメージ、スペクタクル化の重要性
交通、コミュニケーション技術の発展によって脱工業化、構造改革が進み、先進資本主義社会の主要都市は衰退
→主要都市は金融、消費、娯楽の中心地として生き残りをかけた競争に

⇒人々を集めるため都市のスペクタクル化を通し、都市のイメージを作り上げることが必要

Ex. ウエスト・エドモントン・モール、ファニエル・ホール、フィッシャーマンズ・ワーフ

◆言説としての都市

都市を一つの言説として捉えることによって、都市内の建築物、建築物と都市の関係性においてさまざまな意味が浮かび上がる

・イタリア広場の例

歴史的、地理的に異なる要素の折衷、またそれらを現代に変換した要素の集合から成り立っており、一見単なるスペクタクルだが、ニューオリンズ地区という場所、歴史において、この建築物の持つ意味が存在する

◆モダニズム建築、ポストモダニズム建築の乗り越えの可能性

「脱構築主義」建築

・従来の建築様式に捕われず純粋な形態や空間を探究するため、建築物を統一された全体ではなく、相容れない部分の集合とみなす

・多くのポストモダニズム建築が装飾などの外見やイメージを折衷しているのに対し、形態や空間の再構成を行う